

はじめに

みなさんは、^{やまとえんしゅうりゅう}大和遠州流という茶道を知っていますか。

^{おもてせんけ}表千家や^{うらせんけ}裏千家など茶道にはいろいろな^{りゅうは}流派がありま

すが、^{やまとえんしゅうりゅう}大和遠州流とは、^{せんのりきゅう}千利休^(※1)の^{こうてい}高弟の^{ふるたおりべ}古田織部の

弟子であった^{こぼりまさかず}小堀政一^(遠州)^(※2)の^{こぼりまさただ}三男小堀政伊に始ま

る^{こぼりごんじゅうろうけ}小堀権十郎家に^{つた}伝わった茶道です。

茶道の特徴は、^{とくちょう}千利休が始めた「^{せんのりきゅう}わび・さび^(※3)」に加

え、^{こうぞう}茶室や庭の構造、^か茶道具の^{じく}取り合わせや^{せんたく}掛け軸の選択

など、^か茶事に関わる全てに^{えんしゅう}遠州の^{びいしき}美意識を^{はんえい}反映させた

^{きれい}「綺麗さび」にあります。

^{せんのりきゅう}全て千利休が広めた茶の湯から出てきたのです。

※1 ^{せんのりきゅう}千利休

^{あづちももやま}安土桃山時代の^{さかい}堺の商人。茶の湯を^{そうし}創始し、^{とよとみひでよし}豊臣秀吉に仕える

※2 ^{えんしゅう}遠州

^{げんざい}現在の^{しずおかけん}静岡県

※3 ^{わびさび}わび・さび

^{しつそ}質素、^{しず}静かなもの

この茶道の流派が一時期留萌に本拠をおき、留萌の文化

の発展に功績がありました。

これを推進したのが一人の女性でした。

彼女は茶道のほか、華道、絵画、書、謡(※4)、仕舞(※

5)、盤景(※6)、盆石(※7)など多彩に及び、昭和28年(1953)

留萌の文化の振興に寄与したことが評価され、留萌市で

最初となる留萌市文化賞(※8)を受賞しています。

彼女の名は、蓼沼ナヲといます。

※4 謡

能の言葉や台詞の部分に謡うこと

※5 仕舞

能の装束を着けずに舞うこと

※6 盤景

水盤の上に自然の風景のミニチュアを作るもの

※7 盆石

自然がおりなす様々な表情を盆上に描くもの

※8 留萌市文化賞

留萌市の文化振興に特に寄与した人、団体に贈られる賞